



令和4年度  
**入賞作品集**

# 「わがまちのやさしさ発見」 レポート

主催／大阪市

# はじめに

大阪市では、障がいのある人もない人も「ともに暮らし、ともに生きる」ノーマライゼーションの理念に基づき、障がい者（児）や高齢者をはじめすべての人が安全かつ快適に暮らせるよう、建築物や道路、公園、公共交通機関などを整備し、必要なときに「いつでも」「どこでも」「だれでも」利用でき、困ったときにはみんなで支えあえる「ひとにやさしいまちづくり」を推進しています。

本市の建物や施設を新しく建設したり、改修する場合はもちろんのこと、既存の建築物についても段差の解消、エレベーターやスロープ、階段の手すり、多機能トイレの設置、視覚障がい者誘導用ブロックの敷設などバリアフリー化を行っております。また、公共交通機関においては、とりわけ多くの人々が利用する鉄道駅舎におけるエレベーター等の整備が重要であると考えております。

この「ひとにやさしいまちづくり」を推進するには、多くの市民の皆様の理解と協力が必要です。

大阪市では、次の時代を担う中学生・高校生の皆様に「ひとにやさしいまちづくり」の趣旨を理解してもらうことを目的として、平成7年度から、まちなかで見つけた“まちのやさしさ”をレポートにした「わがまちのやさしさ発見」レポートを毎年募集しており、今回で28回目となります。

今回は、中学生の部4点、高校生の部76点、合計80点の作品の応募がありました。応募された作品から、第一次、第二次の審査を経て、中学生の部4点、高校生の部8点が入賞作品として選出されました。

この作品集は、「最優秀賞」「審査委員特別賞」「優秀賞」の受賞作品を掲載しています。作品集を通して、一人でも多くの方に「ひとにやさしいまちづくり」について、理解を深めていただきたいと思います。

中学生・高校生の皆様、次回もやさしさにあふれたレポートの応募を待っています。

令和4年12月

大阪市

# 令和4年度 「わがまちのやさしさ発見」レポート

審査委員長 鳥屋 利治



皆さんは新幹線を利用して旅行を楽しまれたことはあるでしょうか。車いすユーザーが新幹線を利用するとき、どのようなバリアフリー状況があるかご存知ですか。新幹線の車両の1つは、車いすユーザーが乗降しやすい幅の広い扉になっていたり、折り畳みベッドのある多目的室（個室）や、介助者も入れる広さのある多機能トイレ、そして座席に移らず車いすのまま席に居られる車いすスペースがあります。しかし、この車いすスペースが1～2席しかなく、狭くて車いすに乗ったままでは通路にはみ出してしまう等の課題がありました。こうした課題を受けて障がい当事者団体から国土交通大臣への働きかけもあり、新幹線の新しいバリアフリー基準が昨年2021年7月に定められました。新しい基準は、新幹線全体の席数に応じて車いすスペースの席数が決まります。全体の席数が500席未満は車いすスペース4席以上、500～1,000席未満は5席以上、1,000席以上は0.5%以上の席数となります。東海道新幹線は1,300席あるため、11号車に車いすスペース6席と多目的室に1席で合計7席、つまり7人の車いすユーザーが一度に乗車することが可能となります。サイズの大きいストレッチャー型車いすのユーザーも乗車が楽になります。何より車いすに乗ったまま、窓際で車窓を楽しめるようにもなります。今後新たに導入される全国の新幹線の新車両は全て新基準で整備されていきます。そして、特急車両のバリアフリー対策も検討され、新幹線のバリアフリー基準に近い形で来年2023年春から新基準が適用され、新型特急車両に乗車できる機会も増えていくことでしょう。車いすを使っても旅行が楽しめるバリアフリーな社会を期待します。皆さんにもぜひ新基準での新幹線や特急への乗車を体験していただきたいと思います。

さて、中学・高校生の皆さんに、普段自分たちが暮らしているまちの中で障がい者や高齢者、バリアフリーやユニバーサルデザインをより必要とする人たちに配慮された「わがまちのやさしさ」を見つける調査をしていただくこの企画ですが、今年度の応募総数は80作品で、それらを慎重に審議検討した結果、最終審査に残ったのは、中学生の部4作品、高校生の部15作品でした。その中から5名の審査委員によって各賞を選出しました。

総評としましては、駅や図書館等、公共施設を調

査されているレポートが多く見受けられました。実際に現地調査をしっかりと行い、自分なりの考察ができており、写真なども丁寧に扱っている作品が審査委員から高い評価を得ました。今後は、障がいのある人などの生の声も聴いて、ぜひ参考にしてほしいと思います。そして、どの人にとっても配慮されたまちの中のやさしさを発見すると共に、不便な点や課題点にも目を向け、どうすれば誰もが暮らしやすいまちになるか考え、行動に移していただけることを皆さんに期待しています。

作品別としましては、中学生の部では、最優秀賞に藤原 洸輔さんの作品『その立場にならないとわからないこと』が選ばれました。点字ブロックの調査では、デザインが優先され、点字ブロックが床と同系色になっている問題点に着目されたり、自身でアイマスクをしている時としていない時とで自宅から駅までの所要時間がどう違うかしっかり実地調査された点が評価されました。優秀賞には鳥山 慎一郎さんの作品『交通機関で見つけた様々な工夫』が選ばれました。大阪メトロの駅調査で、二段式手すりや、低い位置の券売機、点字表、またホーム柵に着目されたり、ICカードの普及により券売機減ってきていることを駅員から聴き取られたこと等が評価されました。このほかに、佳作として友林 蓮弥さん、木村 千遥さんの作品が選ばれました。

高校生の部では、最優秀賞に本庄 みゆさんの作品『小さな優しさ』が選ばれました。十三駅の調査でエレベーターのボタンの位置、点字表記、多機能トイレ入口の点字案内板や音声案内、ユニバーサルシートやオストメイトの発見をされ、耳の不自由な方とメモアプリを使って行き先の案内を頑張られたことが評価されました。審査委員特別賞には、大村 彩夏さんの作品『図書館のやさしさ』が選ばれました。住吉図書館を調査され、点字ブロックや点字案内図、多機能トイレのオストメイト、そして補助犬など各種マーク表記等に着目され、写真とともに丁寧に説明されている点が評価されました。このほかに、優秀賞として竹中 星妃さん、中川 白菜子さんの作品が、佳作として門島 楓花さん、松浦 夢心さん、余保 祐奈さん、立石 怜那さんの作品が選ばれました。

受賞されました皆さん、本当におめでとうござい



# 令和4年度 「わがまちのやさしさ発見」 レポート入賞者

## 中学生の部

### 最優秀賞

藤原 洸輔さん (大阪教育大学附属平野中学校 1年)

「その立場にならないとわからないこと」

### 優秀賞

鳥山 慎一郎さん (大阪教育大学附属平野中学校 3年)

「交通機関で見つけた様々な工夫」

### 佳作

木村 千遥さん (大阪教育大学附属平野中学校 2年)

「この街のやさしさ」

### 佳作

友林 蓮弥さん (大阪教育大学附属平野中学校 1年)

「気遣いのある地下鉄」

## 高校生の部

### 最優秀賞

本庄 ほん じょう みゆさん (大阪府立淀商業高等学校 1年)

「小さな優しさ」

### 審査委員特別賞

大村 おお むら あや か 彩夏さん (大阪府立淀商業高等学校 1年)

「図書館のやさしさ」

### 優秀賞

竹中 たけ なか きら び 星妃さん (大阪府立淀商業高等学校 1年)

「すべての人のためのバリアフリー」

### 優秀賞

中川 なか がわ ひ な こ 白菜子さん (大阪府立淀商業高等学校 1年)

「バリアフリー化への努力と職員さん方の沢山のやさしさ」

### 佳作

門島 かど しま あう か 楓花さん (大阪府立淀商業高等学校 1年)

「住みたい街」

### 佳作

立石 たて いし れ な 怜那さん (大阪府立西野田工科高等学校 3年)

「優しさの詰まった場所」

### 佳作

松浦 まつ うら ゆめ み 夢心さん (大阪府立淀商業高等学校 1年)

「小さなやさしさ」

### 佳作

余保 よ ほ ゆう な 祐奈さん (大阪府立淀商業高等学校 1年)

「もう1つの世界」

この作品集は、「最優秀賞」「審査委員特別賞」「優秀賞」の受賞作品を掲載しています。